

# 紫波 10月号

【No.633】

2003  
SHIWA TOWN SINCE 1955  
環境と福祉のまちづくり情報誌



特集

## 高齢者の活動と町の取り組み 先輩たちはお元気です



再確認しよう 運動の目的・目標 教育振興だより

シリーズ4 肝炎を正しく理解しましょう

まちの話題

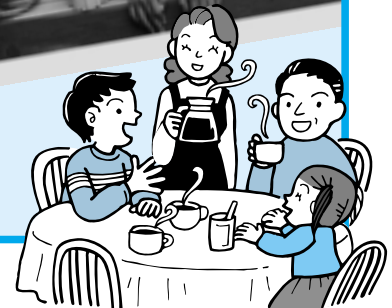
情報掲示板

子どもたちが学校でいきいき学ぶために  
先生と親が手を取り合いませんか？

## 開催します「ペアレント・プロジェクト」

アメリカで実践され成果をあげている、子どもがいきいきと学べるようになるための、学校と家庭を結ぶ新たな教育プログラム「ペアレント・プロジェクト」。これの発案者であるジェイムズ・ボパットさんを招いてワークショップが開催されます。本や子育てに関心のある人などなたでも参加できます。

日時 10月25日(土) 午後1時～4時  
場所 赤石小学校図書室  
内容 お話会 ボランティアによる読み聞かせ  
ワークショップ テーマ「親と子が本で仲良くなる」  
ファシリテーター ジェイムズ・ボパット氏  
参加費 500円  
主催 岩手県国際交流協会  
紫波町教育委員会  
問合せ・申込 生涯学習課学習推進室 ☎672-3362



### 町長メッセージ 「国際ワークキャンプ紫波2003」に思いをこめて

第三回国際ワークキャンプが終了しましたが、この事業の主催者は、日本国際ワークキャンプセンターに参加する若者が主体のNGOです。世界の若者が共同生活をしながら、地域住民と環境・福祉・農業開発などの取り組みを通じて理解を深め合い、交流することを事業の目的としています。

当町で受け入れるねらいは、町民の皆様にあつては、国際感覚を養い、世界の人々と友情で結ばれ相互理解を深めていただくことにあります。子どもたちには国際化する社会になじんで、将来は国際舞台上で活躍できる人材が輩出されるようにと願って進めている事業であります。

今年度は、音楽交流が主体であり、小学校・青少年ホーム・福祉施設・敬老会への参加と、各層での交流をすることが

..... 目 次 .....

#### 特集

### 先輩たちは お元気です

高齢者の活動と  
町の取り組み..... 3

再確認しよう 運動の目的・目標  
教育振興だより... .. 10

シリーズ4  
肝炎を正しく  
理解しましょう..... 14

まちの話題..... 15

情報掲示板..... 18

フオト・歳時記..... 20

町内中高生の作品... .. 20

できたことで、大きな成果を納めることができました。特に小学校の交流を見ますと、言葉が通じなくとも行動と熱意ですぐにうち解け、音楽には国境はないものだと感銘を受けた次第であります。

今後共この事業は継続する必要があります。多くの町民が外国の方々と臆することなくお付き合いができるようになっていただきたい。そして、子どもたちには国際社会で、胸を張って日本人である誇りと自信を持ち、活躍出来る人材に成長してほしいと期待しているところであります。自主的団体として活躍している紫波町国際交流協会と連携をとり、事業の一層の充実を図ってまいりたいと考えております。

(藤原 孝)

# 先輩たちは お元気です

## 特集 高齢者の活動と町の取り組み



町の最高齢、蔭沼の高橋末治さん

町には現在100歳を超える人が4人、さらに今年度中に3人が100歳の誕生日を迎えます。今年米寿を迎えた人は97人でした。明治、大正、昭和、そして戦時中を生き抜き、今日の礎を築いてきた人たちに、常に感謝の気持ちを忘れないようにしたいものです。ともすれば「高齢化社会」を問題視する傾向がありますが、町の先輩たちは、スポーツや地域の活動に現役で取り組み、はつらつと過ごす人がたくさんいます。また、温かい介護を受けながら、不自由な体でも頑張っている人もいます。今回はそんなさまざまな場面と高齢者を支援する町の事業を紹介します。



## 町の最長寿も元気に参加 赤石地区敬老会

九月は各地区で敬老会が行われました。招待客は七十五歳以上の人で、町全体で三千百七十七人が対象になります。赤石地区の敬老会には、町の最高齢、蔭沼の高橋末治さんが参加しました。明治三十三年三月四日生まれ、今年百三歳の高橋さんは、肌の色つやも良く、食事の好き嫌いもないというので、司会者から長生きの秘訣をたずねられると、笑顔で「皆さんにお話出来るようなりつばなことはしていない」と控えめな答えを返していました。付き添いのお孫さんは「地域の皆さんからい

つも声をかけてもらって、お世話になっていきます。来年もここでおいしたいです」とあいさつしました。高橋さんは世界一の長寿百十六歳を目標にしているそうです。また、赤石小学校の六年生赤井友里さんと戸田真優さんは、日ごる家庭でお世話してくれるおじいさん、おばあさんへの感謝の気持ちを福祉作文にして読み上げました。会場の壁には赤石小学校の児童が描いたおじいさんやおばあさんの似顔絵が飾られ、温かく和やかな雰囲気の中で敬老会が進められました。



感謝の作文を読み上げた赤井友里さん(左)と戸田真優さん(右)

特集

町のおじいちゃん  
祝 おばあちゃんは  
元気です

# 長寿は町の宝 敬老会

国際ワークキャンプとは、世界の若者が二  
〜三週間共に暮らしながら、地域の住民と環  
境保護、福祉、農村開発などに取り組む国際  
ボランティア事業です。特別養護老人ホーム  
百寿の郷にも国際ワークキャンプのメンバ  
ーが、楽器を手に訪れました。リーダーの早稲  
田大学三年和田あずみさんを中心にイギリス、  
フランス、スイス、チェコ、韓国人を含む十三  
人で、得意な楽器で日本やそれぞれの母国の  
曲を披露しました。

耳になじんだ「ふるさと」や「もみじ」などの  
童謡を演奏することで、少しでもお年寄りを  
癒したいという温かい気持ちから、みんな一  
生懸命練習してきてくれました。演奏が始ま  
ると、リズムに合わせて体を動かしながら手  
を叩いたり、懐かしい曲に目を潤ませながら  
聴き入ったりと、思い思いの姿で音楽を楽し  
みました。車いすで聞いていたおじいさんは  
「たいしたもんだ。日本の曲も外国の曲もよ  
かった。英語はぜんぜんわからないけれども  
大勢で来てくれてほんとうにうれしいよ」と  
喜んでいました。

演奏の後、奉仕作業として車いす磨きをし  
てくれました。ワークキャンプメンバーのほ  
とんどは初めての作業でしたが、日本の学生  
たちは耳の遠いお年寄りにも大きな声で話し  
かけながら、入所者の大切な足である車いす  
をピカピカに磨き上げていました。

ワークキャンプのメンバーは、このほかに  
も水分、佐比内、長岡地区の敬老会などにも  
参加しています。

## 国際ワークキャンプの若者、懐かしい日本の歌を百寿の郷へ



## 民謡ショーで楽しいひととき にいやま荘で敬老会



県立紫波病院となりの特別養護老人ホームにいやま荘は、開  
所から十四年目を迎えます。病院と老人ホームが併設されると  
いうのは比較的めずらしく、医療面からはとても恵まれた環境  
です。六十九歳から九十七歳まで短期入所も含めると五十人が  
入所しています。この日は多くの入所者の家族やボランティア団  
体、民生委員など大勢が参加。紅白幕も張られ、にいやま荘の  
ホールは華やかな雰囲気模様替えしていました。アトラクショ  
ンでは民謡同好会による、歌あり踊りあり三味線ありのステー  
ジで、民謡歌手漆原栄美子さんも駆けつけ、見事な歌声を披露  
し、皆さんとても楽しそうな一時を過ごしていました。



## ゲートボールを通じて交通ルールを再確認

高齢者を巻き込む交通事故が多発していることから、交通安全に対する意識の高揚を図ってもらいながら、健康増進、相互の親睦を深めることを目的に、第二十九回町交通安全ゲートボール大会が開催されました。九月一日、サン・ビレッジ紫波で行われたこの大会には二十二チーム百五十四人が参加、日ごろの練習の成果を発揮し、チームで力を合わせてプレーしました。長年この競技をしている選手は「ゲートボールはチームワークが欠かせません。チームメイトと協力して作戦を練るので頭も使います。この競技場の人工芝は外のコートと比べてボールが走るのので、スパイクの時は気をつけなさいといけません」と話していました。

この大会は通常の競技ルールに加



え、コートの出入りには必ず横断歩道を左右確認して手を挙げて渡ることになっています。これに違反すると交通指導員から警告をうけ、減点され、競技の勝敗に影響するとなつて、真剣に取り組んでいました。交通ルールの審判にあたった交通指導員も、選手の真剣な取り組みに負けず気を引き締めて、道路を渡るときに左右確認という基本ルールを再認識してもらうよう審査にあたっていました。

大会の結果、次の上位8チームが郡大会への切符を手に入れました。

順位	チーム名	戦績	得失点差
優勝	長栄会(水分)	4勝0敗	+ 42
準優勝	千歳会(赤沢)	4勝0敗	+ 30
第3位	柏会(日詰)	3勝1敗	+ 22
第4位	十日市(古館)	3勝1敗	+ 17
第5位	万年青会(水分)	3勝1敗	+ 10
第6位	新生会(赤石)	3勝1敗	+ 10
第7位	菊の会(上平沢)	3勝1敗	+ 9
第8位	福寿クラブB(赤石)	3勝1敗	+ - 0

町大会優勝の長栄会は、九月二十六日に矢巾町で行われた郡大会でも見事優勝しています。

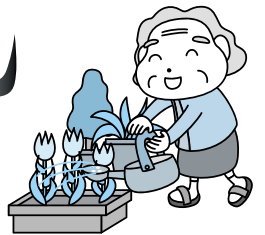
## 紫波かしわクラブが還暦野球全国大会に出場



特集  
町のおじいちゃん  
祝 おばあちゃんは  
元氣です

# 汗を流して誇れる成果

## 運動は健康のもと



軟式野球チーム「紫波かしわクラブ」が、県の推薦を受け全日本選抜還暦軟式野球大会に出場することになりました。かしわクラブは結成から三十年近くになる伝統のチームです。最高齢の大正八年生まれの内村喜一さん（日詰）を筆頭に、現在五十代二十人、六十歳以上が三十人。毎週二回、河川グラウンドで練習をしています。

全国大会は十月十七日から鳥取県倉吉市で開催され、全国から三十八チームが集まります。試合はトーナメント方式で行われ、いわば還暦野球の選抜甲子園大会です。代表者の長谷川利夫さん（日詰）は、「例年は矢巾、（旧）都南のチームとリーグ戦をやっており、北日本大会には何度か行っていますが、全国大会はクラブにとって初めての経験です。気を引き締めて、楽しんできた」と豊富を語ってくれました。



## 町老人クラブ連合会 岩手紫波地区老人スポーツ大会で優勝

八月一日に紫波運動公園陸上競技場で開催された岩手紫波地区の老人スポーツ大会で、昨年に引き続き紫波町が優勝し、町老人クラブ連合会の阿部宥蔵さん（赤石）と中野頼二さん（志和）が藤原町長へ報告に訪れました。大会は徒競走やリレー、ボール送り、輪投げなどの競技結果の総合得点で競うもので、日ごろのトレーニングで鍛えている選手の皆さんは、年齢を感じさせない動きを見せていました。

## 長寿社会室の役割

長寿社会室では、高齢者の在宅生活を支援する目的で各種高齢者在宅福祉サービスを行っています。自立支援サービスでは、要介護状態への移行を予防し、地域や家庭で自立して暮らせるよう支援します。生活支援サービスでは、高齢者が住み慣れた地域や家庭で、在宅生活が継続できるよう支援します。



町で実施している高齢者在宅福祉サービスは次のとおりです。

サービス名	内 容	対象者(大枠)	利用者負担
自立支援サービス	生きがい活動支援通所(デイサービス)	家に閉じこもりがちな高齢者を施設に車で送迎し、日常動作訓練、軽い運動、趣味の活動、入浴指導、健康チェックを行います。	600円/日 入浴サービスは100円加算
	生活管理指導員派遣(ホームヘルプ)	援護を必要とする高齢者に、生活管理指導員(ヘルパー)を派遣し、家事などの日常生活に対する支援および助言を行います。	160円/時間~ 低所得者免除
	生活管理指導短期入所(ショートステイ)	援護を必要とする高齢者に、老人ホーム施設を利用し、短期間の宿泊による体調調整や生活習慣における助言を行います。	細部についてはサービスごとに定めます。
	高齢者生活福祉センター(生活支援ハウス)	身の回りのことが自分でできる高齢者を対象に、自宅での生活に支障がでる冬などの一定期間、居住場所を提供し、安らかな生活を送っていただきます。	収入額に応じた使用料 定額の光熱水費
生活支援サービス	配食サービス	調理が十分にできない独居高齢者などを対象に栄養のバランスに配慮した昼食を定期的に届け、食が偏らないようにします。	400円/食
	外出支援サービス	下肢などに障害を持つ高齢者を対象に、通院などで外出するとき、車いすでも乗れる車を使って移送を行い、社会生活への参加意識の高揚を図ります。	町内片道 500円/回~
	緊急通報装置貸与	近隣に扶養義務者がおらず、発作性の持病がある独居高齢者を対象に、緊急事態を通報する装置を貸与し、不安を解消します。	検討中
	訪問理容サービス	要介護3以上の寝たきり状態の高齢者などを対象に、依頼を受けたお宅に理容師が出張して散髪を行い、清潔感の維持を図ります。	おおむね65歳以上の 高齢者
	老人日常生活用具給付	援護が必要な低所得の独居高齢者を対象に、火災発生の不安解消のため、火災警報機、自動消火器、電磁調理器の給付および老人電話の貸与を行います。	細部についてはサービスごとに定めます。
	家族介護者リフレッシュ	要介護3以上の寝たきり状態の高齢者などを介護している家族を対象に、交流による情報交換や心身のリフレッシュを図ってもらうために、一泊および日帰り旅行を行います。	500~1,000円
	紙おむつ支給	要介護3以上の寝たきり要援護高齢者などを対象に、紙おむつの平均的な年間使用量の約1ヵ月相当分を支給し、経済的負担軽減を図ります。	なし
	家族介護者慰労金支給	要介護4・5の高齢者を対象に、過去1年間に介護保険サービスの利用がないとき、10万円の家族介護慰労金を支給します。	なし

高齢者在宅福祉サービスの利用は、「地域ケア会議」の意見を参考に決定されます。



特集  
町のおじいちゃん  
祝 おばあちゃんは  
元気です

# ご存じですか？ 高齢者とその家族のための 自立・生活・在宅介護 の事業



町の高齢化率は平成13年度に20%を超え、一部の地域では30%を超えています。このような高齢社会の到来に備え、老人保健福祉計画・介護保険事業計画を策定し、長寿を喜びあえるまちづくりを進めてきました。ここでは高齢者を支援する町の事業を紹介します。

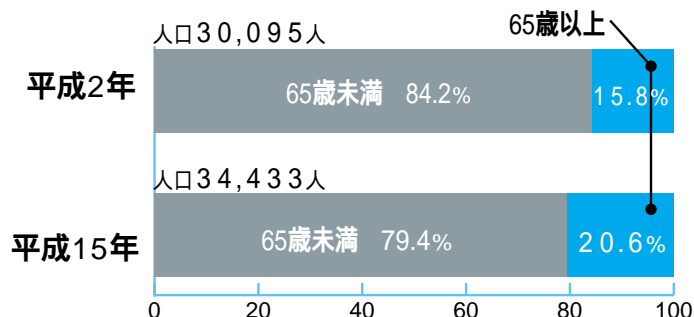
高齢者の生活を応援しています。  
ご相談は、お気軽にどうぞ!!

長寿健康課 長寿社会室(保健センター内)  
☎671-2327

紫波町在宅介護支援センター(保健センター内)  
☎671-1101 有線01-8974(共通)

## 65歳以上の人口比率の推移

平成2年には6~7人に1人だった65歳以上の人が、現在では5人に1人の割合になっています。高齢化社会を「問題」ととらえず、だれもが生き生きと暮らせるまちにしましょう。



## 在宅介護支援センターの役割

紫波町在宅介護支援センター、にいやま荘在宅介護支援センターおよび百寿の郷在宅介護支援センターでは、高齢者が安心して在宅生活を送ることができるよう次の事業を行っています。



事業名	内 容	対象者
高齢者の相談窓口	高齢者の在宅生活におけるさまざまな問題に対応し相談と助言を行い、必要に応じた適切なサービスが利用できるように支援します。また、要介護認定申請、高齢者在宅福祉サービス利用の申請代行を行います。	おおむね60歳以上の高齢者およびその家族
高齢者への訪問	在宅介護支援センター職員が、高齢者のいる家庭を訪問し、その実態把握と適切なサービスが利用できるよう助言します。	65歳以上の独り暮らし高齢者および高齢者だけの世帯を中心に訪問
地域ケア会議の開催	高齢者在宅福祉サービス利用および高齢者への支援方法についての検討、保健福祉・介護サービスについての情報交換を行っています。	おおむね60歳以上の高齢者
転倒予防教室の開催	高齢者が要介護状態となる要因の一つである転倒による骨折を予防するために、自らの体力に関心を持たせ、簡単にできる運動を紹介する教室です。	おおむね60歳以上の高齢者
要介護認定訪問調査	要介護認定のために、全国共通の基本調査票に基づき、心身の状況や生活の様子を調査します。	要介護認定申請者とその家族

在宅介護関連

# 教育振興 だより

再確認しましょう  
運動の目的・目標

日直



教育振興運動は、学校・親・子ども・行政・地域の五者が一体となり「学力向上」と「健全育成」をねらいとして取り組まれてきました。運動の発足当時に比べると、社会は大きく変化し、世代間での交流や、より密接な地域での取り組みが必要となつていきます。夢と希望をもつた子どもを育む運動として、「こころ」の目的・目標を見直し、さらに推進していきます。また、公民館を中心に地域一帯となつて成果を上げている活動を紹介します。

## 今年度の教育振興運動

今年度の教育振興運動の目的、目標、内容を次のように決定しました。

### 目的

子どもを育てる環境の変化の中でこれまで築いてきた地域全体での取り組みをさらに育むため、学校との協働を進め、活動の提供から共に発見する参画型への推進を図る。また、地域の独自性を生かし、地域の知恵を次世代に伝えるコミュニケーションづくりの運動を目指す。

### 目標

学校と家庭、地域社会が子どものあるべき将来像を共有する。

### 内容

- 1 学校と地域の共有した達成目標の設定
- 2 運動推進の成果を評価し、常に見直しを図る
- 3 企画立案組織としての懇談会の開設
- 4 長期的に活動できるグループとリーダーの育成

## 地域住民がつくる ふる里のまつり「十日市祭り」

古館地区公民館 加藤 義男館長

「おいしい焼きそば買って、買って。十日市名物だよ」面白いおもちゃ、安いよ。買ってちょうだい」と、かん高い声で夜店のアピールに懸命な中学生。そうかと思えば、流れる汗を拭くひまもなく焼かねばならぬ焼鳥やイカのぼろぼろ焼き担当。どの店の中学生も、明るく元気いっぱい、楽しく祭りを盛り上げている。

十日市地区内はもちろんだこと日詰、赤石、水分、さらには隣の矢巾町をはじめ県内外からもわざわざ訪れる人も多い。今年は九月十三日宵宮、十四日山車、神輿の運行と、十日市祭典は地域住民の総参加により、手づくりの祭りとして燃えにもえた。

中学生の社会参加活動の出番は、宵宮に行われる手踊りに合わせて開く夜店の担当である。前の晩に集まって、テントの設営、販売する品物の準備、あるいは、大人たちとの打ち合わせと忙しい。

今年は、十日市の人々の熱気で全く雨の心配がなく、千三百人を上回る人が集まった。

突然、「ばんざい」と大きな声で歓声を上げたのはおでんやさん。おばあさん方と一緒に活動して、七百食分を完売した喜びの声である。九時少し前だった。

新聞紙上で取り上げられ問題になっているような中学生の姿はまったく見られない。地域の住民の一人として大人と協力し、生き生きと活動している中学生が頼もしい。

山車は子どもと大人が一緒になって引き、小中高大学生が一体となって、秋空いっぱい響けとばかりバチを握る。それに笛、鐘が花をそえる。

手づくりの祭りは、みんな疲れるけれども秋空のようにさわやかで、誇りすら感じられた。



## 各地区教振の期待する子ども像

地区	期待する子ども像
日詰	元気にあいさつのできる子 進んで読書をする子 地域の環境美化に努める子 地域の人・自然・文化と積極的に触れ合つ子 だれにでも気持ちよくあいさつのできる子ども 地域の中に位置づく子ども (地域行事への参加・公民館活動などに参加する子)
赤石	地域づくり、ふるさとづくりなどの地域活動を通して、文化や自然に親しみ、健康にして人間性豊かな子ども 基礎学力と基本的な生活習慣を身に付けた子ども 思いやりのある子ども 体をきたえる子ども 勉強に励む子ども 進んで働く子ども
古館	学校・家庭・地域社会が協力しあい、さまざまな体験などを通して、「生きる力を身に付けさせる」 『かしく、やさしく、たくましい子ども』
水分	地域の良さが分かり、地域の人々とのかかわりの中で、その良さを伝えよつとする子ども 奉仕の心をもち、自主的に社会参加活動をしよつとする子ども
上平沢	学校・家庭・地域社会が協力しあい、さまざまな体験などを通して、「生きる力を身に付けさせる」 『かしく、やさしく、たくましい子ども』
片寄	学校・家庭・地域社会が協力しあい、さまざまな体験などを通して、「生きる力を身に付けさせる」 『かしく、やさしく、たくましい子ども』



地区	期待する子ども像
彦部	自分たちが住んでいる地域の環境を進んで考え、だれにとつても住みよい町づくりに参加することができると一人一人が地域の一員として、積極的に行動することができると地域に伝わる文化を郷土芸能を通して身に付け伝えることができる子
星山	人・自然・文化とふれあい奉仕の心をもち人間性の豊かな子 心身ともに健康で安全な生活を送ることができると
佐比内	あいさつを、「いつも」「さき」のできる子ども 最後まで自分の仕事をやりぬく子ども 夢・目的を持てる子ども 「わが家の憲法」を守る努力をする。 学校で決めたことを守るように努力する。 親子太鼓の練習に励む。 ボランティアに関心を持つ。
赤沢	だれにでも明るく元気にあいさつのできる子ども 望ましい基本的な生活習慣および学習習慣が身に付いている子ども 子ども会活動や地域行事に積極的に参加する子ども
長岡	だれにでも明るく元気にあいさつのできる子ども 望ましい基本的な生活習慣および学習習慣が身に付いている子ども 子ども会活動や地域行事に積極的に参加する子ども



## 本物の体験を望む

に育ってほしいと願っています。

平成十五年度の町内小・中学校は、各校とも不易の学力向上と生徒指導の充実を掲げ、開かれた学校を目指して幸先の良いスタートを切る事ができました。そして、その成果が着実に表れております。これは学校関係者のみならず、町民全員による児童・生徒に対する指導・援助の賜物であります。

各校における児童・生徒一人ひとりの学習態度は、真剣そのものであり、各種大会や行事はどれを見てても「パワー」が感じられ、嬉しいかぎりであります。

町民の皆さん、「この子どもたち全員が、健康な子に育ってほしい。心が豊かに育ってほしい。賢い子

紫波町教育委員会 教育長 川村 秀彦

えは、無償のお手伝い、自然との触れ合い、スポーツ活動、勤労体験、ボランティア活動など、多くの直接体験を幼い時から積み重ねていく必要があります。

そして、これほどの体験は、「豊かさではなく、貧しさ、不便さの体験」「温かい保護ではなく、汗を流し、泥にまみれる試練の体験」「成功だけでなく、己の心がいなさを知る失敗体験」「受身だけでなく、挑戦する心を育てる体験」でなければなりません。

「この苦しい体験を通して、子どもは本当の自分を知り、自立心や他人への思いやり、命の大切さを知るものである」と思っています。



教育  
振興  
だより

楽しい学びと豊かな地域を  
一緒に創りませんか？



# ゆいぐいぐ活動

## 【学社融合】

いま、子どもたちや学校では地域の力を必要としています。学社融合活動とは学校教育と地域社会とが一緒に、新しい教育を創造していくという活動です。

今年、紫波第一中学校で総合的学習の時間を中心に、地域の人材を活用した授業から、地域の人や保護者が共に学ぶ授業を行いました。具体的には、お茶やお花、陶芸や着付けなどの習い事や各施設での体験など、大人の学びの場と総合的学習の融合という目的で実施しました。

学社融合活動を通じて、素直な子どもに接することができた。「町であいさつされるようになった」という地域の声、「楽しかった」「明るい大人の皆さんと知り合えた」という生徒の声などが寄せられています。学校では、教師も共に学ぶことで教育効果の高い授業を展開することが可能となります。

この活動を通して、さまざまな子どもの問題をみんなで考え、一緒に子どもを育んでいきます。今後とも指導いただける人や一緒に融合活動してみようと思われる人（団体）の参加を期待しています。

赤石地区を中心に、環境問題や子どもたちの健全育成を中心とした課題に取り組んでいるグループ「赤石生活学校」では、昔ながらのおやつを子どもたちと一緒に作りました。



### 中学生の感想

昨日と今日、野外活動センターでいろいろな人たちと過ごして、とても楽しかったです。バスに乗る前は、どんな人たちが来るんだろう...と不安な気持ちで、班づくりでは、心がバクバクするほど緊張しました。同じ班の男子は怖いイメージでしたが、慣れるととても明るい人でした。野外炊事のかまど係の仕事ぶりをみて、とても器用な人だなあと感心してしまいました。他の行事でもとても楽しい時間が過ごせました。

今、ここで過ごしてきた友だち、スタッフ、高校生の皆さんに感謝を申し上げると共に、一生の思い出にしたいと思います。本当にありがとうございました。

紫波一中 一年 伊藤 司

わたしが、この「サマーワーク」に来て学んだことは沢山ありますが、特に思ったのは「友だちの大切さ」です。最初は「もう帰りたい」と思っていました。でも、山に登るとき二人の女の子が「こんにちは」と言うてくれたのです。わたしはこのとき、人に



声をかけてもらって嬉しい」と思いました。

私はこの「サマーワーク」に来て、

## 中高生の夏の思い出

# サマーワーク

今年のサマーワーク（中高生社会参加活動リーダー研修会）は七月二十六日から一泊二日、県立花巻野外活動センターで行われました。学習中心のプログラムから協力・交流が深まる体験中心のプログラムまで、中高生もボランティア参加してくれたスタッフも自然に身も心もゆだね、既製ではない体験で喜びを分かち合いました。

参加者	
中学生	七十四人
高校生リーダー	二十一人
ボランティア指導スタッフ	十三人
天文同好会	四人

## 「郷土の食物」融合学習に取り組んで

赤石生活学校代表 熊谷紀さん

去る七月八日、八月二十六日に、紫波一中の三年生と昔ながらの「小昼おやつ」作りに挑戦しました。一回目は「がんつき」「二回目は白玉だんご」ときりせんじょでした。生徒たちの説明を一生懸命聞く様子から、やるうとする意欲が伝わってきました。説明も終わり、身支度や手洗いなどを行い、いよいよ実習です。四班編成のグループに分かれて、母や祖母とも思われる私たちと、会話を楽しみながら取りかかりました。二回目は、慣れて手早く、次から次へと作りあげていきました。

「白玉だんご」が出来たので味見のために、一個ずつ食べました。先生が「これはおいしいぞ」と言われ、そのとき男子生徒が「どうぞ」と言ってお渡ししてくれました。「あら、どうもありがとう」と言っていたのですが、「何て優しいお子さんだろう」と、とっさの出来事に感動いたしました。



生徒たちの感想の中に

お母さんたちが優しく教えてくれて楽しかったです。ありがとうございました。

トマトの湯むきを教わりありがとうございました。

「きりせんじょ」のしとね方がよくできてよかったです。などの発表がありました。

三回目の実習を楽しみにしております。



いろいろなことを学びつつても良いと思えました。これからも友だちを大切に仲良くなっていきたいと思えます。

本当にありがとうございました。

紫波二中 一年 大弓 恵莉

「サマーワーク」に参加して良かったことは、自然の大切さ、協力することの大切さを感じたことです。

自然の中で暮らして楽しかったり大変だったりしたけど、協力し合っで出来たときは、とても嬉しかった。充実感もあり、やっけて良かったと思ったりしました。

オリエンテーリングでは、なかなか見つけられなくて疲れたりもしたけど、この機会に地図の見方の大切さなども学びることができてよかったです。

同じ班になった他校の中学生ともたくさん話せて楽しかったし、嬉しかったです。

紫波三中 二年 細川 郁恵

## 高校生の感想

高校生活最後の思い出の一つにしたいので、今回の「サマーワーク」に参加しました。友だちに誘われての参加だったので、最初は自分で役に立ってるか、中学生を引っ張っていかれるかと不安でいっぱいでした。

最初はお互いが緊張していきがちなかったけど、すぐに打解けてくれて安心しました。私が担当した四班は、みんな元気で、特に目立つた問題行動を起こすことなく無事に終わりました。

わが四班のスタッフ 兎澤さんは、最高に面白い人でした。作山さんは兄と同級生らしいです。クレンザー高橋さんはオレンジのジャージで目立っていました。この1泊2日は、ステキな人や自然に出会えたこと、ステキな思い出を沢山作ったことなど、良いことばかりでした。この気持ちをずっと忘れずにいようと思います。

紫波高校 三年 藤原 典弥

私は、高校生リーダーとして中学生の前に立つて指示を出したり、分からないことがあつて質問されたときにうまくできないことがあつたら、もっとしっかりしなければならぬと思います。

感じたことは、やっぱり自然は気持ちがいいということでした。自然を大切にすること、これを改めて学んだような気持ちです。

紫波高校 二年 東梅 瑠衣

中学生と一緒にキャンプするということで、少し緊張していましたが、気軽に話し掛けてくれたり、話題を盛り上げてくれたりして、すごく楽しかったです。自分が年上なので、しっかりしなくちゃいけないという責任感を少しは持てたと思います。次回、このような機会があれば、もっと自信を持って中学生の手本になるようにしたいと思います。夏の山の空気など、自然を満喫できてよかったです。楽しい体験ができてよかったです。

紫波高校 三年 佐々木 恵美



教育 振興 だより

正しく

# 肝炎を理解しましょう



## C型肝炎の治療について

### ①原因療法

治療方法は一人ずつの病状に合わせて決定されます。C型肝炎が、初期の軽い状態なのか、ある程度進んだ状態なのか、病期によって、また、肝細胞の状態や、肝臓の残存機能などによって治療方針は異なります。大切なことは定期的に受診しその時その時の「肝臓の状態」を正しく知り、健康管理の方法や治療方針を決めるために主治医と十分に相談することです。今月号と来月号の二回に分け、現在主流になっている治療法を紹介します。

C型肝炎の治療方法は大きく分けて①原因療法（抗ウイルス療法）と②対症療法に分かれます。今回は原因療法について紹介いたします。原因療法はウイルスを身体から排除することを第一の目標として行われ、各種のインターフェロンを用いた治療法とインターフェロンとリバビリンの併用療法があります。

インターフェロンは、本来私たちの体の中で作ら

れる免疫物質の一種で、インフルエンザなどにかかったときに、ウイルスの増殖を抑える働きをするもので、C型肝炎治療の中心となる薬です。リバビリンという薬は単独で使用すると効果がありませんが、インターフェロンと併用することにより、治療効果が格段に高くなります。

治療期間は通常六カ月間ですが、場合によっては一年間という長期にわたることもあります。

この治療法を行っても完全にウイルスを排除できない場合もありますが、肝機能の改善と発がんの抑制を期待することができます。ですから完全に治らない場合でも二〜五年の時間の巻き戻しができるといわれています。

### 「副作用について」

治療には少なからず副作用が伴います。薬の量を調節したり、症状を抑えるための鎮痛解熱薬などを使用し対応しますが、薬の投与を中止せざるを得ない副作用が出る時もありますので、治療中は厳密な検査などによる経過観察が必要です。

インターフェロンでは、発熱、頭痛、白血球減少、血小板減少、食欲不振、脱毛など、時に精神的不安定（うつ状態）、間質性肺炎などの症状が現れることもあります。

リバビリンでは、貧血（溶血性貧血）、皮膚の掻痒症や中毒疹などの症状が現れることもあります。

次回は対症療法について紹介します。

## C型肝炎の治療方法

### 原因療法でウイルスを抑える

## C型肝炎の原因治療による副作用

### インターフェロン

発熱、頭痛、白血球減少、血小板減少、食欲不振、脱毛など

時に精神的不安定（うつ状態）、間質性肺炎など

### リバビリン

貧血（溶血性貧血）、皮膚の掻痒症、中毒疹など



（原稿提供

渡辺内科医院

渡辺立夫院長）

第四十一回技能五輪全国大会(新潟大会)が十月二十四日から二十七日まで新潟市の朱鷺メッセほかを会場に行われます。この大会はメカトロクス、機械組立て、広告美術など三十四競技種目を対象として全国から千人ほどの青年技能者(満二十三歳以下)が集い、その技能レベル日本一を競うものです。県内からは二十種目五十七人が参加、そのうち町からは次の皆さんが出場します。

【建具部門】石橋明日香さん(菊池木工所)  
【メカトロクス部門】野崎利徳さん、中村崇之さん  
(二子コン朝日)

【洋裁部門】滝浦清子さん(三和ドレス盛岡工場)

【電子機器組立て部門】吉田貴さん(盛岡セイコー工業)  
若さみなぎる皆さんの健闘に期待します。

### 熊本大会で銅賞受賞

#### さらに上位をねらう石橋さん

菊池木工所で働く石橋明日香さん(二十二歳)は建具部門に出場します。建具部門は制限時間(十一時間半)内に仕口の集合体を、かなな、のこぎりなどの手加工作業で仕上げ、その正確さ、美しさを競うものです。

石橋さんは、子どものころ、絵を描くことが好きだったので高校はデザインを専攻しましたが、自分は描くことよりも、物を作る方がむいているのではないかと気づきこの道に進んだそうです。

菊池木工所に勤めて三年になる石橋さんは、昨年、県の木工建

具手加工作業二級技能検定で金賞を受賞し、熊本で行われた技能五輪全国大会に出場。みごと銅賞を獲得したため、今年の技能五輪にはシードで出場します。

精神面がとてもしっかりと菊池木工所の社長が太鼓判を押す石橋さんは、今年はずせられないで、じつくりと、悔いが残らない作品を仕上げ、前回より上位をねらいます」と意気込みを聞かせてくれました。



大会への準備に余念がない石橋明日香さん。忙しい仕事の合間に自らの技術を磨きます。



## 来年は技能五輪2004 in 銀河系いわて(第42回技能五輪全国大会 / 国際大会予選)

来年度のこの大会は岩手県で開催されることが決まっています。新潟大会、岩手大会とも競技のほかさまざまなものづくりの楽しいイベントを用意しています。入場無料で競技の観戦ができます。

日時 平成16年10月22日(金)~25日(月)  
会場 産業文化センターアピオほか

### 【問合せ】

**新潟大会** 技能五輪にいがたゆめ・技・モノがたり2003 推進協議会  
☎025-280-5218 <http://www.pref.niigata.jp/ginougorin/>

**岩手大会** 技能五輪2004in 銀河系いわて推進協議会  
☎629-5581 <http://www3.pref.iwate.jp/ginougorin/>

## 子どもたちの人気者 丸太からできた熊

9/10

環境教育の一環として、木のすばらしさをもっと子どもたちに知ってもらおうと、上平沢小学校ではチエンソーアーティスト城所啓二さん(愛知県)を招きました。町の山から切り出した杉の百年木直径五〇センチほどをさまざま大きな大きさのチエンソーを使い分けて、作品を彫ってくれました。大きなチエンソーは排気量が七〇ccもあり、エンジンがかかるとものすごい音とともに、木くずが何メートルも高く上がり、みな驚いていました。完成までには三〜四時間かかるそうですが、十五分ほどすると、頭の形がみえてきて、子どもたちは「熊だ、熊だ」とささやきはじめました。出来上がった作品は上平沢小学校に飾られ、毎日子どもたちを迎えています。



片寄小学校の交通安全教室では、子どもたちに事故の恐ろしさを教えるため、ダミー人形が乗用車に跳ねられる場面を実演しました。小学生ほどの大きさの人形を校庭にロープで吊し、時速三〇キロでぶつかると、人形は十メートルほどはね飛ばされ、その瞬間には子どもたちから悲鳴のような声があがりました。県内でも小学生のいたましい死亡事故があり、「道路の縁石には絶対に乗らない、座らない、歩かない」ことを警察署の菅原上平沢駐在員と子どもたちは約束しました。

相場教頭先生は「4月ころはみんな気を付けて登下校していました。このころは慣れもあり、危ないと思うことがあるので、自分の命を守るための勉強をしてください」と話し、学年ごとに学校前の横断歩道の渡り方を再確認していました。

片寄小学校前の道路は緩やかなカーブを描き、自動車はスピードを落とさないうまま通行し、大型トラックも頻繁に通る場所です。子どもたちを交通事故から守るため、ドライバーのみなさんも人に優しい運転を心がけるようお願いしています。

## ダミー人形で交通事故の 恐さを体験

9/10

## 言葉が通じなくても、すぐ仲良しに 国際ワークキャンプ2003

8/27 ~ 9/13

一行は期間中、自転車管理棟で自炊し、フルーツパークでの農作業体験や、ラ・フランス温泉館の清掃作業も行いました。

上平沢小学校を訪問したグループはフランスのリオンでよく作られる人形を三年生と一緒に制作しました。子どもたちはフランス語は話せないのに、気持ちを通じるようで、布を切る難しい部分はすぐに聞いて一緒に作っていました。

今年で三回目となる国際ワークキャンプが、二週間半にわたりチェコ、スイス、フランスなどから大学生中心の十四人を迎え行われました。今回は特に音楽を通じた交流が中心で、福祉施設や小学校で、バイオリンやチェロ、クラリネットの演奏を披露したり、一緒に歌ったりしました。



古館小学校五年二組の教室では、韓国の李炯賢さんが韓国の歌を子どもたちに教え、一緒にダンスしながら歌いました。炯賢さんは町で二週間ほど過ごし、「空気がきれいで、人が優しい、とてもいいところがいい町です。食べ物も韓国と似ているので、何でも食べられます」という感想を話してくれました。



## 古館スポ少、バレーボールで 全国大会の結果報告に

9 / 17

古館バレーボールスポーツ少年団（小川奈緒美代表、藤道成監督）が、八月四日から東京で行われた全国大会へ出場し、和歌山県のチーム相手に一セット奪つなど健闘してきました。このスポーツ少年団は、三年前にも全国大会へ出場しており、当時のメンバーが現在所属している紫波一中バレーボール部男子は、県大会で優勝という成績を収めています。今後も、部員が中・高校へ進学することを考えると、周囲の期待はますます高まりそうです。町長室に凱旋報告に訪れた子どもたちは、藤原町長から「これからスポーツを続けてください。でも、勉強もがんばってください」と言われ、「はい、勉強もがんばります」と元気に答えていました。このチームには古館地区だけでなく、長岡からも参加しており、やる気のある子どもなら、どの地区からも参加できるそうです。



図書館支援グループほん太ネットの活動三周年を記念して、元オフコースのドラマー大間ジローさんのドラム演奏を交えたトークライブが行われました。「夢は叶う」と題して、ビートルズやレッドツェッペリンにあこがれ、武道館の舞台で自分が演奏することをイメージしたことからドラマーとしての道が開けたことや、オフコース時代のメンバーの話には勇気づけられた人もいたようです。母親が石鳥谷町の新堀出身という話しになると、石鳥谷からライブを楽しみに参加した人たちが歓声が上がっていました。現在は故郷秋田を拠点として活動し、元オフコースのメンバーとA・B・C・Lを結成しアルバムやライブ活動をしたり、和洋楽器のコラボレーションユニット「天・地・人」では津軽三味線、和太鼓、ドラムの新たな音の世界に挑戦したりしています。

「オータムフェスタ 見つけよう2003」として同時開催された「いい本選ぶ会」も毎回好評で、今回も多くの人が訪れていました。大間さんが勧める本は「変な人の書いたツイてる話」（斎藤一人著）ということでした。

## 夢を叶えた元オフコースのドラマー、 大間ジローさんが来町

9 / 20

## 「ごみ集積所」はみんなでマナーを 守ってきれいに使いましょう

8 / 26

「ごみポイ捨て監視員と衛生組合連合会役員との合同研修会が開催されました。始めに意見交流会が行われ、日ごろの活動や事業を通じてのごみの減量化、環境美化に対するそれぞれの思いが発表されました。特に、「ごみ集積所利用のマナーの悪さについては、ごみポイ捨て監視員、衛生組合連合会役員どちらも指摘する問題であり、区長や班長の指導だけでなく、啓発活動などによる住民意識の向上が必要である」という意見で一致しました。その後、藤原町長から資源循環型のまちづくりについて講話があり、それぞれの役割を再認識するとともに、お互いの連携を確認して研修会を終りました。



まちの  
話題

## 集団婦人検診を受けられなかった人へ 個別子宮がん検診のお知らせ

今年度の集団婦人検診はすでに終了しましたが、期間中に受診できなかった30歳以上の人を対象に、個別子宮がん検診を実施します。健康を守るためにも、受診していない人は、この機会を利用し、年に1度は検診を受けましょう。

**検診期間** 10月27日(月)～11月28日(金) 土・日曜・祝日は除きます

**受付時間** 午前9時～正午・午後2時～5時

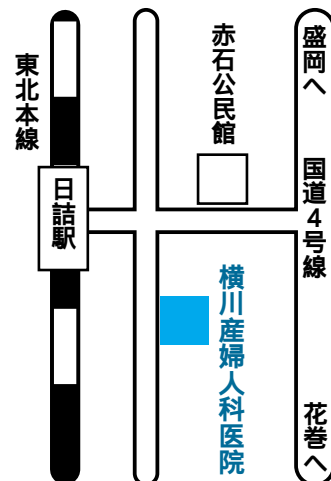
**指定検診機関** 横川産婦人科医院(北日詰字東ノ坊28-3 ☎676-3811)

**検診料金** 料金6,405円のうち自己負担1,700円(病院受付で納入)  
町負担4,705円

70歳以上の人は無料になります

**その他** 保険証と自己負担分の検診料金を持参し、受診してください。  
問診票は病院の受付にありますので、受診時に記入してください。

**問合せ** 長寿健康課健康推進室 ☎672-4522 有線01-8991



### 平成15年度 日詰公民館・健康講座 「元気プラス講座」開設

日詰公民館が主催するプレ更年期から更年期までを上手に過ごせるようにするための講座です。全3回で、今回が第1回になります。これから更年期を迎える人、現在そのきざしが現れつつある人、そして更年期で悩んでいる人などお気軽にご参加ください。

**日時** 10月22日(水) 午前9時30分～午後2時

**場所** 中央公民館

**内容** 午前9時30分～「体操」(体育指導員の佐藤淳子さんによる中国の医療体操「練功」) / 午前10時30分～「調理・試食」(元気プラスクッキング隊による漢方的食事・薬膳) / 午後1時～「講演」(助産師の直嶋昌代さんによる「更年期って何?」)

**参加費** 1,000円(調理材料代) 体操と講演は無料。当日は動きやすい服装でご参加ください。調理希望の人はエプロン持参。

**問合せ・申込** 10月17日(金)までに日詰公民館へ ☎671-1642

**今後の開催予定** 【第2回】11月26日(水) 【第3回】12月15日(月)

### 公有財産(車両)の公売について

町では次の3台の車両を公売します。詳しい内容、車両の状況はお問い合わせください。

**公売物件** 小型ポンプ付き積載車(トヨタ製消防車 M-RK111改、昭和59年登録) / 普通貨物車(三菱キャンター P-FE435F改、昭和63年登録) / 油圧式パワーショベル(コマツ製 PC20-5、昭和46年登録)

**受付** 土・日曜・祝日を除く10月15日(水)～11月14日(金) 午前9時～午後5時に総務課職員管財室へ

**問合せ・申込** 総務課職員管財室 ☎672-2111 内線2312

### 紫波町 IT サポートセンター主催 パソコン講習会

紫波町 IT サポートセンターでは次のとおりパソコン講習会を開催します。

#### 昼の部(午後2時～5時)

10月14日～22日の火・水曜  
パソコン入門コース

10月16日～24日の木・金曜  
エクセル入門コース

10月28日～11月5日の火・水曜  
エクセル入門コース

10月30日～11月7日の木・金曜  
ワード入門コース

#### 夜の部(午後6時～9時)

10月21日(火)～24日(金)  
ワード入門コース

**受講料と定員** 各コース2,000円、定員10人

**問合せ・申込** 紫波町 IT サポートセンター  
☎676-6558

Eメール help.shiwa@iris.ocn.ne.jp

### おわびと訂正

紫波ネットお知らせ版10月号の8ページ、新しい保育所の求人記事内に誤りがありました。事務員、調理師募集対象は「昭和48年4月2日」ではなく、「昭和28年4月2日から」です。おわびし訂正いたします。

## 大規模な土地取引には 届出が必要です

5,000㎡以上（都市計画区域以外は10,000㎡以上）の一団の土地を売買するとき、土地の権利取得者（買主）は契約締結日から2週間以内に県知事に届け出なければなりません。これは無秩序な土地利用を防止するために、国土利用計画法で定められているもので、無届などには罰則（懲役6ヵ月以内または100万円以内の罰金）もありますのでご注意ください。売買のほかには交換、営業譲渡、譲渡担保、代物弁済、地上権・賃借権の設定・譲渡、予約完結権・買戻権などの譲渡も対象となります。一団の土地は、複数の地続きの土地をひとりの人が取得する場合に該当し、売主が複数人で個々の面積が小さくても対象となります。

**届出先・問合せ** 政策経営課政策調整室 ☎672-6871

## 社会人もチャンス! 岩大で 社会人特別選抜学生

岩手大学では、地域社会の文化への向上と国際社会の発展に貢献の理念に基づき、社会人特別選抜学生を次のとおり募集します。

**募集内容** 教育学部生涯教育課程生涯教育コースと同学部芸術文化課程造形コース(美術)、いずれも人員は若干名

**出願資格** 平成16年4月1日現在の年齢が満23歳以上で、高等学校卒業か同等以上の学力があると認められる人、または通常の課程による12年の学校教育を修了した人

**選抜日程** 11月15日(土) 午前9時30分～ 生涯教育課程生涯教育コースは小論文と面接、芸術文化課程造形コースは面接

**出願** 11月1日(土)～7日(金)に所定の出願書類を添えて持参または速達書留で郵送

**問合せ** 岩手大学学生部入試課 ☎626-1202 問合せは原則として志願者本人が行ってください。

## インフルエンザ予防接種 65歳以上に町が助成

インフルエンザは流行すると、高齢者の死亡率が高くなります。町では、その対策として、今年も65歳以上の人を対象にインフルエンザ予防接種の費用の一部を負担します。今年は、流行前にできるだけ多くの方が接種できるように時期を早めています。詳しくは紫波ネットお知らせ版11月号でお知らせします。



**実施時期** 平成15年10月20日(月)～平成16年1月31日(土)

**実施方法** 指定医療機関で個別接種

**受診券** 指定医療機関または、保健センターで交付

**問合せ** 長寿健康課(保健センター内) ☎672-4522

## 盛岡地方振興局主催の 起業&マネージメント講座

盛岡地方振興局では、雇用拡大を目的にNPOなどの起業や就職を希望する人材を育成する「NPO起業等・マネージメント講座」を開設します。NPOなどの基礎知識やコミュニティ・ビジネスなどに関するマネージメントを学ぶほか、実際に事業を行っているNPOなどの見学も予定しています。なお、募集要項は10月下旬にホームページに掲載するほか、盛岡地方振興局地域振興課で配布する予定です。

**講習期間** 平成15年11月25日(火)～平成16年2月27日(金)を予定(月曜～金曜までの夜間および土曜の日中に開催。詳しくは要項でお知らせします)

**募集定員** 30人(面接により選考)

**場所** 学科は盛岡市内、実地研修は県内および隣県

**受講料** 無料(ただしテキスト代、交通費、実地研修費は自己負担)

**問合せ** 盛岡地方振興局企画総務部地域振興課 ☎629-6512

## 増田知事に直接 提言してみませんか

紫波町、盛岡市、矢巾町在住の人を対象に、増田知事に意見や提言を直接伝えることができる「知事との対話」が次のとおり開催されます。どなたでも参加できますので、気軽にご応募ください。

**日時** 11月20日(木) 午後3時～5時

**場所** 矢巾町保健福祉交流センター「さわやかハウス」(矢巾町大字南矢幅、田園ホール西隣) ☎611-2821)

**募集定員** 30人(応募多数の場合は盛岡地方振興局が選定)

**申込締切** 10月31日(金)

**問合せ・申込** 盛岡地方振興局企画総務部企画課 ☎629-6510

## 「お母さん」たちを応援 いいお産の日 in いわて

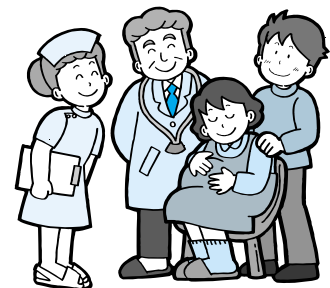
県看護協会助産師職能委員会では、11月3日の「いいお産の日」に合わせ、「いいお産の日 in いわて」を開催します。妊娠中の人や子育て真っ最中の人はもちろん、出産未経験の人でも気軽に参加できます。ご夫婦での参加も歓迎します。

**日時** 11月3日(文化の日) 午後1時～4時、入場無料

**場所** プラザおでって(盛岡市中の橋通) 託児室もあります

**内容** 体験コーナー 妊婦になってみましょう/子育てミニ体験/赤ちゃんにさわろう、分娩の経過を知ろう、手作り産着コーナー/ベビーマッサージ/おっぱいコーナー

**問合せ** 県看護協会 ☎662-8213





# 紫波 フォト 歳時記

残った日々の生活・風景などを、あなたの秘蔵・自慢の写真で紹介

あなたの作品をお待ちしています  
応募先

〒028 3390 紫波町役場 環境課 紫波フォト歳時記係  
☎672 2111 有線01 8972

## 珍客来訪 ツキノワグマ

武田 俊之さん(片寄)の作品



杉林の床に広がる六月の若草。普段は何も気に留めることのない慣れた風景。

その日は、じもと少し違った。ふと、視線を感じ二階の窓の外から林に目を向けると、わが家を訪れた珍客が食事の真ん中だった。真っ黒な体に、白く月輪。そう、ツキノワグマである。

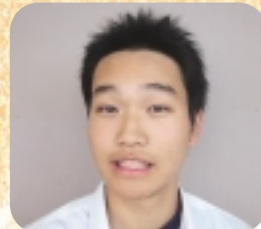
わが家の裏山は、タヌキ、キツネ、カモシカなどの動物の宝庫。その森の民である彼がまむしぐさ草この辺では、へびノダイハチと呼んでいる)を夢中になつて食べていた。

ツキノワグマは恐ろしいものであると聞かされていたが、そのときの彼の穏やかな顔は、恐ろしさを感じさせるものではなかった。人間もツキノワグマも、自然に生かされている仲間である。山火事や山林開発により、彼らは棲家を追われ、里に下りてきていたすらをみる。これからは、共に生きていく道を考えていく必要があるのかもしれない。



藤尾 初音さん(3年)  
自分の普段の表情を素直に表現した作品です。美術部に所属し、イラストを描くことが大好きで、将来は漫画家になれたらいいなと思っています。

[作品名] 自画像  
紫波第一中学校



下町 龍也さん(3年)  
みんなが描くものと少し違うものを描いてみたくて、黒と赤のコンテだけを使ってみました。陸上部で短距離が得意ですが、なかなか思うような記録が出せず苦しんだこともあったそうです。

## オールカラー 中高生の芸術